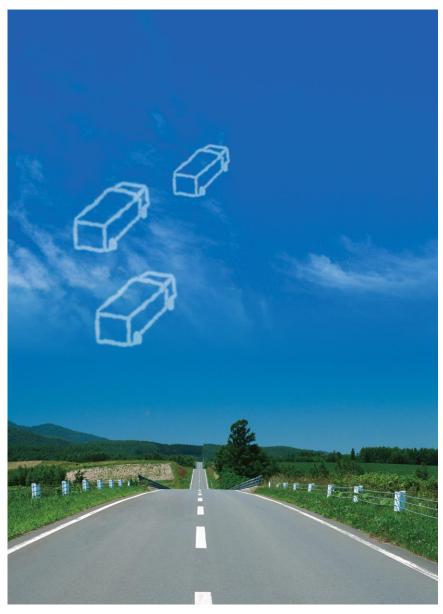
エコアクション21 環境活動レポート No. 7



発行日:2018年5月11日

活動期間:2017年1月1日~2017年12月31日



株式会社 丸福運送

【目次】

目	次·····	1
1.	組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	(1)会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	(2)登録対象範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	(3)組織図	3
2.	環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3.	環境負荷の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5 ~ 7
4.	環境目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8~9
5.	環境活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10~11
6.	環境目標の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12~17
7.	環境活動計画の取組結果とその評価及び今後の取組内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18~22
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
9	代表者による全体評価と見直し結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24

1. 組織の概要

(1) 会社概要

事業者名 株式会社 丸福運送

代表者名 瀬尾 茂数

所在地 〒814-0171 福岡県福岡市早良区野芥4-45-21

法人設立年月日 昭和41年11月5日

資本金 1000万円

主要業務內容 一般貨物運送、引越(一般家庭,事業所)、精密機械搬入搬出、

物流資材販売、PCカスタマイズ、産業廃棄物収集運搬

事業規模

項目	単位	2014年	2015年	2016年	2017年
売上高	百万円	9 1 6	8 8 1	8 9 6	8 8 2
従業員数	人	100	108	1 0 9	1 0 8
床面積	m²	6,306	6,306	6,306	6,306
車両数	台	9 8	9 8	9 4	9 0

(2) 登録対象範囲

■組織 ·本 社 :福岡県福岡市早良区野芥4-45-21

・福岡営業所 : 福岡県福岡市早良区東入部3-1-8・東倉庫 : 福岡県糟屋郡粕屋町仲原3-7-38・南営業所 : 福岡県朝倉郡筑前町朝日1148-1

■活動

事業活動の内容 一般貨物自動車運送事業、倉庫業、産業廃棄物収集運搬業 許可番号等

一般貨物自動車運送事業 福陸自第4937号

倉 庫 業 福運航第931号

産業廃棄物収集運搬業 許可年月日 有効年月日

福岡県 04000043607 平成25年10月7日 平成30年10月6日 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等、ゴムくず

佐賀県 04103043607 平成25年11月7日 平成30年11月6日 ゴムくず並びに廃プラスチック類、金属くず及びガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず 熊本県 04305043607 平成26年5月7日 平成31年4月29日 ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、廃プラスチック類 山口県 03500043607 平成26年4月6日 平成31年4月5日 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず

登録車両 バン(箱車) 23台

2017年度 産業廃棄物収集運搬実績 42.170 t

環境管理責任者 物流部 部長 : 瀬尾 浩之 E A-21 事務局 総務部 課長 : 金子 智之

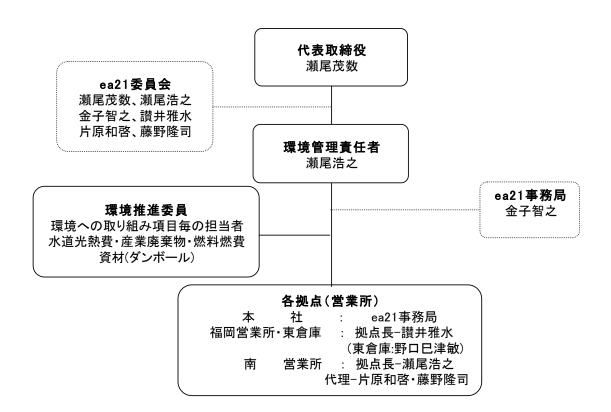
連絡先(事務局) TEL : 092-801-1155

FAX : 0 9 2-8 6 4-1 2 5 5

E - mail : t-kaneko@marufukuunso.co.jp
URL : http://www.buturyu.info/

活動年度 1月~12月

(3) 組織図



役割分担表

所属	役割・責任・権限
	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ
	②環境方針を策定し従業員全員に周知する
代表取締役	③ea21全体の取り組み状況に関し、評価・見直しを実施する
	④環境管理責任者、環境委員などを任命する
	⑤環境整備に対する経営資源投入について意志決定する
	①ea21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築実行し環境面の実績を向上させる
TIM 1 + 44 TIM	②上記の結果を最高責任者へ報告する
環境管理 責任者	③ea21の文書類の承認をする
AL L	④環境委員会の委員長としてea21全般の舵取りを行い、実行を推進する
	⑤環境目標、環境活動計画を作成し、社員全員に周知する
	①環境経営システムの文書化をとりまとめる
環境	②環境への負荷の自己チェックを確認し取りまとめる
推進委員	③環境への取り組みの自己チェックを確認し取りまとめる
	④環境管理責任者を補佐し問題点の審議と解決策を立案する
	①自拠点の環境目標、環境活動計画を拠点全員に周知する
	②自拠点の環境目標、環境活動計画の実績把握を行う
拠点長	③自拠点の教育・訓練を実施する
	④社内外の環境情報の収集と伝達を行う
	⑤自拠点の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
ea21委員会	①毎月の拠点長会議後に開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を審議する
市改巳	①ea21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う
事務局	②各拠点内でのサポートを行う

2. 環境方針

環境理念

株式会社 丸福運送は、環境問題に積極的に取り組み社会に貢献する活動を推進し、地球環境保全及び地域社会の発展に寄与するとともに、社会からいっそう信頼される企業を目指します。

環境方針

- 1. 事業活動全ての業務において、省エネルギー・省資源、廃棄物削減・リサイクル、 節水、環境に優しい物品の購入と導入に努めます。
- 2. 自動車からの排気ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止する為、エコドライブ の実践、低公害車の導入を推進します。
- 3. 引越業務や輸送業務、精密機器搬入出業務で使用する資材のリユース化を推進し、 新たに購入する資材の削減に努めます。
- 4. 引越業務や輸送業務、PCカスタマイズ業務で排出される廃棄物(梱包材)の再利用とリサイクルに努めます。
- 5. 環境目標を設定して、定期的に見直すことにより、環境保全活動の継続的な改善に努めます。
- 6. 関係する環境法規及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の軽減、環境汚染の 防止に努めます。
- 7. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、従業員の意識向上を図り、地域の環境保全に積極的に貢献します。
- 8. この方針を、広く社外に公開します。

制定: 2011年1月1日

株式会社 丸 福 運 送

代表取締役 瀬足 茂散

3. 環境負荷の調査結果

環境負荷削減の目標及び環境活動計画を策定するため、過去3年間の環境負荷実績の調査結果 は下表の通りです。

全社

	= 理按▲の各共			単位	2014年	001EÆ	0016年
		環境への負荷 - ┺4/1: 出表 / □				2015年	2016年
1	温室効果ガス排出			kg-CO ₂	1731698.417	1852753.973	1756971.771
量		二酸化炭素(全	2. 項目) *2	kg-CO ₂	1731888.176	1852947.948	1757182.614
		()	kg-CO ₂			
2	受託した産業廃棄			t	80.726	69.885	72.529
	物の処理量	中間処理用		t			
		うち再資源の	比等量	t			
		最終処分量		t			
		中間処理後の	産廃の処分量	t			
		中間処理後の産	廃の再資源化等量	t			
3	廃棄物排出量及び		(循環資源量)	t	0	0	0
	廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(熱回収・焼却)	t	1.9476	1.5747	1.393
			合計量	t	0	0	0
			(循環資源量)	t	48.231	111.875	130.64
		産業廃棄物	(熱回収・焼却)	t	0.54	0	0.36
			合計量	t	0	0	0
4 -1	総排水量	公共用水域		m^3	0	0	0
		下水道		m ³	249	275	257
4)-2	水使用量	上水		m^3	249	275	257
		工業用水		m ³	0	0	0
		地下水		m ³	0	0	0
⑤	化学物質使用量			kg	0	0	0
				kg	0	0	0
				kg	0	0	0
6	エネルギー使用量	購入電力(新エ	:ネルギーを除く)	MJ	1377733.48	1317396.94	1208913.06
		化石燃料		MJ	24447005.15	26244194.06	24911208.02
		新エネルギー		MJ	0	0	0
		その他		MJ	0	0	0
7	物質使用量	資源使用量		t	13.731	20.917	21.045
		循環資源使用量		t	7.454	6.717	5.08
8	サイト内で循環的利			t	0	0	0
	用を行っている物質量	水の利用量		m^3	0	0	0
9	総製品生産量または	製品生産量等		t			
	総商品販売量	環境負荷低減	こ資する製品等	t			
		容器包装使用:		t			

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 〇 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数(平成22年度実績)0.385kg-CO2/kWhとしています。
- *1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量
- *2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

※総排水量と水使用量について

南支店(南営業所)の水道はすべて井戸水で使用メーターが付いていないため、その量を把握できません。このため、総排水量と水使用量は、本社、福岡支店(福岡営業所、東倉庫)の値としています。

本社•福岡支店

平位"恒问又店							
	環境への負荷			単位	2014年	2015年	2016年
1	温室効果ガス排出	二酸化炭素(目	標設定項目)*1	kg-CO ₂	989798.8594	1049567.843	1016931.761
	里	二酸化炭素(全	項目)*2	kg-CO ₂	989988.6181	1049761.819	1017142.604
		()	kg-CO ₂			
2	受託した産業廃棄	収集運搬量		t	80.726	69.885	72.529
	物の処理量	中間処理用		t			1
	İ	うち再資源化	上等量	t			
	İ	最終処分量		t			
	İ	中間処理後の道	産廃の処分量	t			
			廃の再資源化等量	t			
3	廃棄物排出量及び		(循環資源量)	t	0	0	0
	廃棄物最終処分量		(熱回収・焼却)	t	1.1054	0.7778	0.5472
	İ		合計量	t	0	0	0
	İ		(循環資源量)	t	48.231	46.88	49.14
	İ	産業廃棄物	(熱回収・焼却)	t	0.09	0	0.36
			合計量	t	0	0	0
4 -1	総排水量	公共用水域		m ³	0	0	0
<u></u>		下水道		m ³	249	275	257
<u>4</u> -2	水使用量	上水		m ³	249	275	257
	İ	工業用水		m ³	0	0	0
		地下水		m ³	0	0	0
⑤	化学物質使用量			kg	0	0	0
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			kg	0	0	0
				kg	0	0	0
6	エネルギー使用量	購入電力(新工	ニネルギーを除く)	MJ	1085448.26		942647.85
	İ	化石燃料		MJ	13808227.88	14698659.69	14283810.61
	İ	新エネルギー		MJ	0	0	0
_		その他		MJ	0	0	0
7	物質使用量	資源使用量		t	13.227	20.469	20.623
<u></u>	II 21 · ·	循環資源使用量		t	7.454	6.717	5.08
8	サイト内で循環的利用を行っている物質量	利用された物質	重	t	0	0	0
<u>©</u>				m ³	0	0	0
9		製品生産量等	一咨せる制口学	t t	\vdash	1	
	闷问如纵 冗重		環境負荷低減に資する製品等		\vdash		
		容器包装使用	里	t		' <u> </u>	

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 〇 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数 (平成22年度実績) 0.385kg-CO2/kWhとしています。
- *1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量
- *2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

南支店

南支に	占						
	環境への負荷			単位	2014年	2015年	2016年
1	温室効果ガス排出	二酸化炭素(目	標設定項目)*1	kg-CO ₂	741899.5575	803186.1299	740040.0104
	量	二酸化炭素(全	È項目)*2	kg-CO ₂	741899.5575	803186.1299	740040.0104
		()	kg-CO ₂			
2	受託した産業廃棄	収集運搬量		t	0	0	0
	物の処理量	中間処理用		t			
		うち再資源を	化等量	t			
		最終処分量		t			
		中間処理後の	産廃の処分量	t			
		中間処理後の産	廃の再資源化等量	t			
3	廃棄物排出量及び		(循環資源量)	t	0	0	0
	廃棄物最終処分量		(熱回収・焼却)	t	0.8422	0.7969	0.8458
			合計量	t	0	0	0
			(循環資源量)	t	0	64.995	81.5
		産業廃棄物	(熱回収・焼却)	t	0.45	0	0
			合計量	t	0	0	0
4 -1	総排水量	公共用水域		m ³	0	0	0
		下水道		m ³	0	0	0
4)-2	水使用量	上水		m ³	0	0	0
		工業用水		m ³	0	0	0
		地下水		m ³	0	0	0
(5)	化学物質使用量			kg	0	0	0
				kg	0	0	0
				kg	0	0	0
6	エネルギー使用量	購入電力(新工	ニネルギーを除く)	MJ	292285.22	267690.56	266265.21
		化石燃料		MJ	10638777.26	11545534.37	10627397.41
		新エネルギー		MJ	0	0	0
		その他		MJ	0	0	0
7	物質使用量	資源使用量		t	0.504	0.448	0.422
	循環資源使用量		t	0	0	0	
8	サイト内で循環的利	利用された物質	恒	t	0	0	0
	用を行っている物質量			m ³	0	0	0
9		製品生産量等	- 'A 7 44 F A	t			
	総商品販売量		に資する製品等	t			
		容器包装使用	量	t			

- ①温室効果ガス排出量(二酸化炭素)、②廃棄物排出量、③-1総排水量、④化学物質使用量は必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2水使用量が把握必須項目となります。
- 各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。
- ⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含まれます。
- 〇 購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力のCO2排出係数 (平成22年度実績) 0.385kg-CO2/kWhとしています。
- *1 目標設定項目(ガソリン、軽油、灯油、電気使用量)での二酸化炭素排出量
- *2 目標設定外の項目(都市ガス、LPG、産廃廃油)を含む二酸化炭素排出量

4. 環境目標

当社の環境目標は、環境負荷の調査結果より以下のような目標を設定いたしました。尚、目標設定の基準は2015年度のデータを使用しております。

【全 社】

	目標・活動項目(単位)	2015年度値 (基準値)	2016年度	2017年度	2018年度
	酸化炭素排出量の削減 -CO2)	1,852,753	1,834,224	1,815,697	1,797,168
	燃料消費量の削減①	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	ガソリン使用量の削減(L)	27,084	26,813	26,542	26,271
	燃料消費量の削減②	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	軽油使用量の削減(L)	660,428	653,824	647,219	640,615
	電気使用量の削減	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	(総電気使用) (kWh)	134,018	132,678	131,338	129,997
	灯油使用量の削減(L)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
		2,042	2,021	2,001	1,980
つ 松公	排水量の削減(㎡)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
乙. 形心	が小里の削減(III)	275	272.25	269.50	266.75
2咳	棄物総排出量の削減(t)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
3.疣	果物心が山里の削減(い)	113.450	112.316	111.181	110.047
4.グリーン購入使用品目の増		基準値	1品目増	2品目増	3品目増
4.7	リーノ無人使用の日の増	5品目	6品目	7品目	8品目
5 ±"\	ノリン・軽油の燃費向上	カブソリン 11.16km/ドル	カブソリン 11.27km/ポ	カブソリン 11.38km/ポ	ガソリン 11.49km/╎ス
5.71	ノリノ・軽油の必負円工	軽油 5.56km/%	軽油 5.61km/%	軽油 5.66km/ki	軽油 5.71km/ki

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の CO2 排出係数 (平成 22 年度実績) 0.385kg-CO2/kWh としています。

【本社・福岡支店】

目標•活動項目(単位)	2015年度値 (基準値)	2016年度	2017年度	2018年度
1.二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO2)	1,049,565	1,039,065	1,028,573	1,018,071
燃料消費量の削減①	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
ガソリン使用量の削減(L	18,478	18,293	18,108	17,923
燃料消費量の削減②	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
軽油使用量の削減(L)	365,983	362,322	358,663	355,003
電気使用量の削減	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
(総電気使用)(kWh)	106,786	105,718	104,650	103,582
灯油使用量の削減(L)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
为 油使用重切削减(口)	2,042	2,021	2,001	1,980
2.総排水量の削減(㎡)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
2.松外小量の削減(III)	275	272.25	269.50	266.75
3.廃棄物総排出量の削減(t)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
3.)発果物総併山重の削減(t.	47.658	47.176	46.706	46.229
 4.ダンボール使用量の削減(t)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
4.ダンホール使用重の削減(し)	19.72	19.523	19.326	19.128
5.低公害車の100%導入の約	基準値 基準値	100%維持	100%維持	100%維持
持【運送用車輌】	100%	100%	100%	100%
6.ガソリン・軽油の燃費向上	カ ソリン 10.41km/ ¦兆		カンリン 10.61km/ポ	カブソリン 10.71km/╎ス
0.カノソノ・粧油の燃食円工	軽油 5.52km/%		軽油 5.62km/%	軽油 5.67km/%

【南支店】

目標•活動項目(単位)		2015年度値 (基準値)	2016年度	2017年度	2018年度
	酸化炭素排出量の削減 -CO2)	803,188	795,159	787,125	779,093
	燃料消費量の削減①	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	ガソリン使用量の削減(L)	8,606	8,520	8,434	8,348
	燃料消費量の削減②	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	軽油使用量の削減(L)	294,445	291,502	288,556	285,612
	電気使用量の削減	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
	(総電気使用) (kWh)	27,232	26,960	26,688	26,415
	灯油使用量の削減(L)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
		0	0	0	0
つ松公	排水量の削減(㎡)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
乙. 协心	が、重の門が、川)	0	0.00	0.00	0.00
2咳	棄物総排出量の削減 (t)	基準値	1%削減	2%削減	3%削減
3.発	未物心外山里 少剂 观(U	65.792	65.140	64.475	63.818
4.エコ・地域活動項目の増		基準値	1項目増	2項目増	3項目増
		2項目	3項目	4項目	5項目
5 ±"\	ソリン・軽油の燃費向上	カブソリン 12.58km/ポル		ガソリン 12.82km/ポ	カンリン 12.94km/パル
J./J	ハル 柱加の総具門工	軽油 5.61km/%		軽油 5.71km/%	軽油 5.76km/ポ

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の CO2 排出係数 (平成 22 年度実績) 0.385kg-CO2/kWh としています。

5. 環境活動計画

【全社共通】

No.	環境目標	実施事項	実施部門
		X 11. 4 X	責任者
1	電気使用量の削減 (CO2の削減) ≪目標≫ 総電気使用量・・・ 2015年度比 2%削減	①エアコン設定温度の順守 ②休憩時間、不使用時の消灯 ③コピー機の使用頻度を減らす	全拠点 拠点長 本社は事務局
2	燃料使用量の削減 (CO2の削減) ≪目標≫ ①車輌燃料・・・2015年度比2% 削減 (ガソリン・軽油の削減) ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽 油:5.66km/L カ*ソリン:11.38km/L	①運転指導(デジタコ等)による走行距離あたり燃料消費効率の向上(エコドライブ) ②車輌整備による走行距離あたり燃料消費効率の向上(エコドライブ) ③タイヤの空気圧を測る ④タイヤのローテーションを行う	全拠点 拠点長 本社を除く
3	灯油使用量の削減 ≪目標≫ 2015年度比 2%削減	① 冬期時室内温度を守る ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない ③ ストーブの利用者が見あたらない時は消火する	全拠点 拠点長 本社は事務局
4	廃棄物排出量の削減 ≪目標≫産業廃棄物量削 減・・・2015年度比2%削減	①引越業務、輸送業務におけるプラスチックダン ボールの利用	福岡営業所 福岡拠点長
5	一般廃棄物排出量の削減	①廃棄物の分別の徹底 ②リュース、リサイクル推進活動の展開 ③排出量の秤量管理	全拠点 拠点長 本社は事務局
6	総排水量の削減 《目標》 2015年度比2%削減	①洗車ルールの周知徹底による節水意識の浸透 透 ②ストッパー付き洗車ノズル使用の継続 ③効率の良い洗車手順の調査・指導	全拠点 拠点長 本社は事務局
7	グリーン購入使用品目の促進 ≪目標≫ 2015年度より2品目追加	①グリーン購入使用品目の調査 ②今年度購入・使用品目の検討・実施と使用を 推進	全拠点 購入担当者

【各拠点】

No.	環境目標	実 施 事 項	実施部門 責任者
K1	低公害車100%導入の維持 ≪目標≫ 100%導入維持	①低公害車の100%導入【運送用車輌】	本社 本社購入担当者
K2	ダンボール使用量の削減 ≪目標≫ 2015年度より2%削減	①引越業務におけるダンボールの再利用化	福岡営業所 福岡拠点長
К3	エコ·地域活動項目の増 ≪目標≫ 2015年度より2項目増	①エコロジー活動を選定し、継続的に活動する ②地域に貢献できる活動を選定し、継続的に活動する 動する	南営業所 南拠点長
K4	【本社・福岡支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽 油:5.62km/L ガソリン:10.61km/L	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	福岡営業所 福岡拠点長
K5	【南支店】 ガソリン・軽油の燃費向上 《目標》 軽 油:5.71km/L ガソリン:12.82km/L	全社共通の燃料使用量の削減に同じ	南営業所 南拠点長

6. 環境目標の実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

【全 社】

※判定は、○..達成 ×..未達

T II						
環境目標	2015年度	2017年度 目標値		2017年度		
坪地□1示	(基準値)			年合計		
	二酸化炭素排出量	-	目標値	1,815,698		
1. 二酸化炭素排出量	1,852,753 kg-CO2	-	実績値	1,572,621		
			判定	0		
	①ガソリンの削減		目標値	26,542.00		
	27,084 L		実績値	26,558.47		
燃料消費量の削減	実施責任者:本社除く拠点長	基準年度比	判定	×		
※科用貝里VJBJ/W	②軽油の削減	2%削減	目標値	647,219.00		
	660,428 L		実績値	556,420.74		
	実施責任者:本社除く拠点長		判定	0		
	③電気使用量		目標値	131,338		
	134,018 kWh		実績値	119,292		
事務所及び作業場の電力・灯油使用	実施責任者:各拠点長	基準年度比	判定	0		
量の削減	④灯油の削減	2%削減	目標値	2,001.00		
	2,042 L		実績値	1,925.00		
	実施責任者:各拠点長		判定	0		
	排水量	++>46 (- c+-)	目標値	269.50		
2. 総排水量の削減	275 m ³	基準年度比 2%削減	実績値	301.00		
	実施責任者:各拠点長	2/0/3//9/	判定	×		
	総廃棄物量	++>46 (- c+-)	目標値	111.181		
3. 廃棄物総排出量の 削減	113.45 トン	基準年度比 2%削減	実績値	139.255		
אפוונכו	実施責任者:各拠点長	2/0/3//9/	判定	×		
	グリーン購入使用品目の増	++>+	目標値	2品目追加		
4. グリーン購入使用品 目の増	5 品目	基準年度より 2品目追加	実績値	購入使用維持		
	実施責任者:拠点購入担当者	2000200	判定	0		
	2015年度 11.16km/L	11.38km/L	カ゛ソリン	10.97		
5. ガソリン·軽油の燃 費向上	基準データ 5.56km/L	5.66km/L	軽 油	5.63		
	実施責任者:本社除く拠点長	基準より2%向上	判定	X/X		

○全項目(目標設定外の項目を含む)の二酸化炭素排出量 1,572,830kg-C02 ※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の C02 排出係数(平成 22 年度実績) 0.385kg-C02/kWh としています。 【本社・福岡支店】

※判定は、○.. 達成 ×.. 未達

十二	田岡入川			か刊 足は、	O., Æ,	人 八八庄
環境目標		2015年度		2017年度		2017年度
	ᄽᄽᄺᆸᆥ	(基準値	j)	目標値		年合計
		二酸化炭素排出量		-	目標値	1,028,571
1.	二酸化炭素排出量	1,049,565	kg-CO2	-	実績値	1,017,403
					判定	0
	燃料消費量の削減	①ガソリンの削減		基準年度比 2%削減	目標値	18,108.00
		18,478	L		実績値	15,356.41
		実施責任者:本社隊	余く拠点長		判定	0
		②軽油の削減			目標値	358,663.00
		365,983	L		実績値	358,491.41
		実施責任者:本社隊	余く拠点長		判定	0
		③電気使用量		基準年度比 2%削減	目標値	104,650
		106,786	kWh		実績値	93,896
	事務所及び作業場の思わいに決定	実施責任者:各拠点	点長		判定	0
	の電力・灯油使用量の削減	④灯油の削減			目標値	2,001.00
		2,042	L		実績値	1,925.00
		実施責任者:各拠点	長		判定	0
	総排水量の削減	排水量		基準年度比 2%削減	目標値	269.50
2.		275	m ³		実績値	301.00
		実施責任者:各拠点	長	27063#9	判定	×
		総廃棄物量			目標値	46.706
3. 削減	廃棄物総排出量の	47.658	トン	基準年度比 2%削減	実績値	33.342
אפוונכו		実施責任者:各拠点	長	27063#9	判定	0
		総使用量			目標値	19.326
4. 削減	ダンボール使用量の	19.72	トン	基準年度比 2%削減	実績値	19.081
אפוונים		実施責任者:福岡披	処点長		判定	0
		低公害車導入率(%	%)	1 0 0 %維持	目標値	100%維持
	低公害車の100% の維持				実績値	100%維持
ぜハ	Vンル件1.立	実施責任者:本社則	購入担当者		判定	0
		2015年度 10).41km/L	10.61km/L	カ゛ソリン	9.64
6. 費向	ガソリン・軽油の燃	基準データ	5.52km/L	5.62km/L	軽油	5.52
見凹	_	実施責任者:本社院	余く拠点長	基準より2%向上 判定	判定	X/X
		•		•		

○全項目(目標設定外の項目を含む)の二酸化炭素排出量 1,017,611kg-C02 ※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の C02 排出係数(平成 22 年度実績) 0.385kg-C02/kWh としています。 【南支店】

※判定は、○..達成 ×..未達

1四+辛口 +西	2015年度	2017年度		2017年度
環境目標	(基準値)	目標値		
	二酸化炭素排出量	-	目標値	787,125
1. 二酸化炭素排出量	803,188 kg-C02	_	実績値	555,219
			判定	0
	①ガソリンの削減		目標値	8,434.00
	8,606 L		実績値	11,202.06
	実施責任者:本社除く拠点長	基準年度比	判定	×
然がから見重りから	②軽油の削減	2%削減	目標値	288,556.00
	294,445 L		実績値	197,929.33
	実施責任者:本社除く拠点長		判定	0
	③電気使用量		目標値	26,688
	27,232 kWh		実績値	25,396
事務所及び作業場 の電力・灯油使用	実施責任者:各拠点長	基準年度比	判定	0
量の削減	④灯油の削減	2%削減	目標値	0.00
	0 L		実績値	0.00
	実施責任者:各拠点長		判定	0
	排水量	甘港左帝以	目標値	0.00
2. 総排水量の削減	O m³	基準年度比 2%削減	実績値	0.00
	実施責任者:各拠点長	_, 0,00,00	判定	
	総廃棄物量	甘维左连以	目標値	64.475
3. 廃棄物総排出量の 削減	65.792 トン	基準年度比 2%削減	実績値	105.914
	実施責任者:各拠点長	_, 0.55%,	判定	×
4 	エコ・地域活動項目の増	甘类仁产上价	目標値	1項目追加
4. エコ·地域活動項目 の増	2 項目	基準年度より 2項目追加	実績値	活動継続
	実施責任者:南営業所拠点長		判定	0
	2015年度 12.58km/L	12.82km/L	カ゛ソリン	12.59
5. ガソリン·軽油の燃 費向上	基準データ 5.61km/L	5.71km/L	軽 油	5.82
-	実施責任者:本社除く拠点長	基準より2%向上	判定	×/O

○全項目(目標設定外の項目を含む)の二酸化炭素排出量 5 5 5, 2 1 9 kg-C02 ※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の C02 排出係数(平成 22 年度実績) 0.385kg-C02/kWh としています。

(1) 燃料消費量の削減【全社,本社・福岡支店,南支店】

目標値について、全社及び南支店のガソリン消費量以外は全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油共に目標を達成しています。全社のガソリン消費量は、目標値を超えた消費量が16.47Lと非常に少ないため目標を達成したとみています。南支店のガソリン消費量が目標を達成出来なかった原因は、ガソリン車を福岡営業所から南営業所へ前年度に1台、今年度に1台移籍したことが影響したと考えられます。また、移籍した2台は業務上、走行距離が長いため影響が大きくなっています。

南支店の軽油消費量が大きく減少しています。これは南支店の車両の減少による走行距離の減少が原因とみています。2015年度の南支店の軽油使用車両は32台で、今年度は29台となっています。

燃料消費量の基準年度(2015年度)と今年度比較

		2015年度	2017年度(2015年度比)
ガソリン	本社・福岡支店	18,478.44L	15,356.41L (83%)
	南支店	8,605.51L	11,202.06L (130%)
	全 社	27,083.95L	26,558.47L (98%)
軽 油	本社・福岡支店	365,983.85L	358,491.41L (98%)
	南支店	294,444.60L	197,929.33L (67%)
	全 社	660,428.45L	5 5 6, 4 2 0.74L (8 4 %)

燃料消費量は、受注し自社車両で運送した走行距離に比例します。受注した中で傭車売上は 燃料消費量に影響しません。自社車両で運送した走行距離とその売上の関係を把握し、売上 の単位で燃料消費量を簡易に見えるような方法を模索していきます。

グループ企業を構成しております「株式会社 明和運輸」を、2017年7月に合併しました。 旧明和運輸の車両は下記の通りです。合併後は、全車両南支店の所属となりました。

大型冷凍車 6台 軽油 2017年度消費量 107,285.02L 今年度の目標・実績に、旧明和運輸の燃料消費量(上記)は含めていません。

(2) ガソリン・軽油の燃費向上【全社,本社・福岡支店,南支店】

南支店の軽油以外は、全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油共に目標を達成できませんでした。また、旧明和運輸の車両を含めた結果も達成できませんでした。

		目標	今年度
ガソリン	本社・福岡支店	10.61 km/L	9.64 km/L
	南支店	$1\ 2.8\ 2\mathrm{km}/\mathrm{L}$	$1~2.5~9\mathrm{km}/\mathrm{L}$
	全 社	$1\ 1.\ 3\ 8\mathrm{km}/\mathrm{L}$	$1~0.9~7\mathrm{km}/\mathrm{L}$
軽 油	本社・福岡支店	$5.62\mathrm{km/L}$	$5.52\mathrm{km/L}$
	南支店	5.71 km/L	$5.82\mathrm{km/L}$
	全 社	$5.66\mathrm{km}/\mathrm{L}$	$5.63\mathrm{km/L}$

旧明和運輸含む 5.30km/L 5.11km/L (軽油·全社に含めた結果)

ガソリン・軽油共に前年度より燃費は向上しましたが、目標達成には至りませんでした。 南支店のトラック運転者は以前から省エネ運転の意識が高く、その結果が年々の値に表れています。本社・福岡支店は1回の運行距離が長くなると燃費が悪くなる傾向があります。現在行っている運転指導に足りないものがあるように思えます。運行形態・運行内容などの違いや指導方法を研究し、来年度へ反映させてまいります。

(3) 事務所及び作業場の電気使用量の削減【全社,本社・福岡支店,南支店】

本社・福岡支店、南支店及び全社において目標を達成できました。前年度、南支店は目標を達成できませんでしたが、今年度は目標達成できました。

前年度の環境活動レポートにも記載しましたが、本社・福岡支店において、夏場に東倉庫を利用されるお客様のご利用が無くなり目標達成の余裕ができました。

本社・福岡支店及び南支店においても、このままの節電方法であれば来年度以降の目標達成は厳しいと思われます。

冬期のエアコンの熱を拡散させない有効利用する方法や、OA機器や電灯の電源入り時間帯など、各拠点の事務所や倉庫においてもさらに節電の意識向上に努めます。

(4) 事務所及び作業場の灯油使用量の削減【全社,本社・福岡支店(,南支店)】

灯油は本社と福岡営業所において、石油ストーブでの利用のみとなっています。

本社・福岡支店、南支店及び全社において目標を達成できました。目標値と実績値の差が僅かでした。今シーズンは極端に寒い日が続くなど石油ストーブを利用する時間が長かったと考えられます。その分、エアコンの利用時間が短くなり電気使用量が少なくなったようです。

(5) 総排水量の削減【全社,本社・福岡支店(,南支店)】

従業員の節水意識の向上により、効果をあげることができました。東倉庫において、2月に 水道管凍結防止のために蛇口を開けていたことを忘れ大量に水道水が漏れていたことがあり ました。この月を平常使用量とすると目標は達成したと考えられます。

南支店の水道はすべて井戸水で、使用メーターも未設置のため、その使用水量を数値で計る ことができません。目標値/実績値は、本社・福岡支店の値としています。

洗車で使う水の量を数値化できるよう洗車時間の管理を本社・福岡支店及び南支店で行っていますが、2014年度から南支店の洗車場で洗車が出来ない状態が続いています。このため南支店の洗車時間の計測も出来ていません。雨水利用のタンクを設置し洗車に使用する設備工事は早めに予算を確保するよう努力します。

(6) 廃棄物総排出量の削減【全社,本社・福岡支店,南支店】

本社・福岡支店で目標達成できました。全社及び南支店は目標達成できませんでした。南支店の結果が全社の結果となっています。

本社・福岡支店において、分別を細かく、分解できる物は分解するという事を徹底した効果が 結果として表れました。また、お客様に廃棄物減量のお願いも続けています。

南支店は梱包材の増加による廃棄物の増加となっています。受注増加で梱包材も増加しているので、発送元への梱包材の簡易化のお願いなどを相談し、廃棄物排出量を減少させるよう努力します。

(7) グリーン購入使用品目増【全社】

レーザープリンタトナーとジェルジェットインク、トラック用タイヤ、制服(運転者・事務)、 書類を綴じるファイル、糊・テープ、マジック・サインペンを前年までに対象としてまいり ました。今年度は、その他筆記具を追加品目としました。会社購入に限らず個人購入のファ イルもなるべくエコマーク付きにするよう、従業員へお願いしました。

(8) ダンボール使用量の削減【福岡支店】

今年度は目標達成できました。新品ダンボールを使用する事務所移転が前年度に比べて少なかったと考えられます。

前年度と比較すると、中古ダンボールの使用量は減少していますが、エコダンボールの使用量は増加しています。中古ダンボールやプラスチックダンボールの利用を営業担当者からお客様へアピールするよう引き続き行ってまいります。

今後はダンボール以外の資材(テープ類や梱包材)の削減目標ができるよう検討します。

(9) 低公害車の100%導入の維持【本社】

今年度、3月に1台、12月に1台のトラックの新車購入がありました。低公害車の確認をしました。12月に中古乗用車1台を購入しましたが、中古車であるため低公害車100%導入の対象に含めていません。

(10) エコ・地域活動項目の増【南支店】

事務所横のグリーンカーテンは今年度で5年目となりました。結果は、窓全体を覆うほどに 十分なカーテンまでには育ちませんでしたが、夏場の温度上昇抑止効果が感じられるほどに 育ちました。次年度も引き続き育てます。節電効果を期待します。

また、営業所周辺の道路脇などを週一回ペースで清掃するようにしました。確実に週一回実施は出来ていませんが、これも引き続き実施していきます。

6. 環境活動計画の取組結果とその評価及び今後の取組内容

当社としては、本社・福岡支店及び南支店の事業活動における環境への負荷を低減するために、以下の通り活動を実施しています。なお、その達成状況や活動の実施状況を毎月のEA-21 委員会にてフォローしております。

■ 環境活動計画の取組結果

(1) 電気使用量の削減

当社の CO2 排出量としては3番目に多い電気 (2.78%) 使用量を削減することとしました。

- ① 休憩時間の消灯や未使用時の電源 OFF の実施と節電シールの表示
- ② 温度計の設置
- ③ 空調使用時の温度管理の徹底(夏季:26℃~28℃、冬期:20℃~22℃)
- ④ 節電管理表への記入による確認
- ⑤ コピー機の使用頻度を減らす

(2) 燃料使用量の削減・ガソリン軽油の燃費向上

当社の CO2 排出量としては1番目に多い軽油(93.55%)2番目に多いガソリン(3.39%)使用量を削減することが当社として最大の効果があると考え下記のような対策を実施しております。

- ① 無駄なアイドリングのストップ(荷物積込み及び荷降ろし時にエンジンをストップ)
- ② 急加速、急減速、不要な高回転、速度超過を行わない
- ③ 運行管理者より運転者への指導
- ④ 日常点検の実施(整備管理者による指導)
- ⑤ 整備管理者は定期的に車輌のタイヤの状態を確認する
- ⑥ 整備管理者はタイヤのローテーションをタイヤや運行の状況に応じて実施する

(3) 灯油使用量の削減

当社の CO2 排出量比率は低いですが、使用量が多いため使用量を削減することとしました。

- ① 冬期時室内温度を守る
- ② 事務所の扉や窓が開けっ放しにしない
- ③ ストーブの利用者が見あたらない時は消火する

(4) 産業廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の中で、引越や運送の梱包資材として使うダンボールの排出量を削減するため の対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様にプラスチックダンボールの利用を勧める
- ② お客様のプラスチックダンボール利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 自社内で使用するダンボールは、プラスチックダンボールや買い物かごとする

(5) 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物はリサイクル・リユースできるものも多く、これらを少しでも分別して再資源化できるような対策を実施しています。

- ① 一般廃棄物は、分別札に応じた分別がされている
- ② ミスコピーは再利用箱に入れる
- ③ 電子メール・掲示板・回覧・スキャナ・ファイルサーバーを利用し、印刷を減らす。また、会議資料等の配布物を少なくなする
- ④ 排出量は、市販されている簡易な秤で計量する

(6) 総排水量の削減

当社の水資源の使用は主に車輌の洗車です。水を出しっぱなしにしないように、水を使う時間を短くするような対策を実施しています。

- ① 水を出っぱなしにせず、こまめに水を止め使用する
- ② 洗車記録書に洗車実施者と洗車時間を記入する(整備管理者への報告)
- ③ ストッパー付き洗車ノズルの使用の継続
- ④ 効率の良い洗車手順の調査・指導

(7) グリーン購入使用品目増

当社のグリーン購入品の購入ルールを作り、購入担当者への指導とグリーン購入品の拡大へ の活動を展開しております。購入だけでなく使用品目も対象としています。

- ① 比較的多く購入している物で、グリーン製品に替わる物を調査し、今年度追加する購入 品目を決定し、購入担当者へ周知指導する。
- ② トラックの修理部品や消耗品等のエコマーク商品の検討と実施
- ③ 個人で購入・使用する物もなるべくグリーン購入品やエコマーク付きを選択するよう従業員へお願いする。

(8) ダンボール使用量の削減

当社は引越業務を営んでいます。引越業務で使用するダンボールをリユースし、新しいダンボールの使用量を削減する対策を実施しています。

- ① 営業担当者はお客様に再利用ダンボールの利用を勧める
- ② お客様の利用向上を図る施策を拠点内で検討、実施する
- ③ 使用済みダンボールの回収率を上げる工夫を拠点内で検討、実施する

(9) 低公害車100%導入の維持

当社は一般貨物自動車運送事業を営んでおり、運送業務で使用する車輌を低公害車へ替えていくことは必須だと考えます。

① 購入担当者は、低公害車の100%導入を維持する

(10) エコロジー・地域活動項目の増

当社は、身近なエコロジー活動や地域に貢献しまた参加できる活動を推進します。この活動から次への発展を期待します。

- ① エコ活動,地域に貢献・参加できる活動を調査し、今年度活動可能な項目を決定する。
- ② 手順や実施方法を検討し、実施する。

(11) その他

本社・福岡支店及び南支店は前年度から引き続き、計画に基づいて活動を実施しております。

- ① 教育訓練の実施
 - ▶ 従業員への教育

朝礼や安全会議でのエコアクション21への取り組みについての説明、社長及び各拠点長による指導・掲示物・指標などの掲示による意識向上を実施してきました。

- ② 毎年取組み状況チェック
- ③ EA-21システムの確実な実施
- ④ その他
 - ▶ 当社内出入り業者に対して、アイドリングストップのお願い要請と事務所入口に「アイドリングストップ」の表示を実施しています。
 - ➤ この環境活動レポートを、本社、福岡営業所及び南営業所に常備し、外部に公開しています。

■ 環境活動計画の取組に対する評価

EA-21環境改善取組みは、2011年1月から実施(本社及び福岡営業所)し、2013年度から全社体制となり、2014年度から本社・福岡支店グループ(本社・福岡営業所・東倉庫)と南支店グループ(南営業所)及び全社それぞれに環境活動目標値を設定し、拠点毎での環境活動体制が整いました。さらに2016年度では目標基準年度を2015年度にし、2018年度まで3カ年の環境活動目標値を設定しました。

本レポートも7回目となりました。今年度からガソリン・軽油の燃費向上目標を、全社、本社・ 福岡支店及び南支店それぞれに設けました。目標基準年度は2015年度としました。

環境活動目標値に対し受注や売上高、作業量などによって増減する実績値の評価を考えることが出始めました。燃料消費量は、運送売上高の内、自社車両の運送分が上がれば増加し、下がれば減少します。それにより洗車の回数の増減により、総排水量も増減します。また、南支店の梱包材の廃棄物は受注数量の増減に影響されます。目標値・実績値の単位の取り方や評価方法を研究しなければなりません。

内部監査について今年度も実施できなかった。監査内容をEA-21 専門として行うのではなく、現業業務の内部監査を主軸とし、その中にEA-21 の監査項目を簡単なものから徐々に追加していく方向で、監査内容を整えていくよう検討することとしました。主となる現業業務は運行管理を想定しています。内部監査を実施することが有意義であることを根付かせることが、大事であると考えます。

以前からマンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導(従業員の意識向上・理解)は、新たな手法や教材の開発を引き続き行います。何かにプラス環境活動教育内容で進めてまいります。

EA-21の十分な運用ができるよう、今後も環境方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

(1) 電力使用量の削減(判定【全社:〇,本社・福岡支店:〇,南支店:〇])

本社・福岡支店、南支店及び全社において目標を達成できました。前年度、南支店は実績使 用量が目標に対して100.47%でしたが、今年度は目標達成できました。

本社・福岡支店及び南支店において、このままの節電方法による節電が限界に近づきつつあると思われます。熱や空気の流れをコントロールするなどこれまでと違う節電方法を模索します。

(2) 灯油使用量の削減(判定【全社:○,本社・福岡支店:○(,南支店:○)】)

灯油は本社と福岡営業所において、石油ストーブでの利用のみとなっています。南支店においての灯油使用はありません。

本社・福岡支店、南支店及び全社において目標を達成できました。目標値と実績値の差が僅かでした。今シーズンは極端に寒い日が続くなど石油ストーブを利用する時間が長かったと考えられます。エアコンとストーブをバランス良くまた効率よく利用するよう利用方法を検討します。

(3) 燃料使用量の削減(判定【全社:×/○,本社・福岡支店:○,南支店:×/○】)

全社及び南支店のガソリン消費量以外は全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油共に目標を達成しています。全社のガソリン消費量は、目標値と消費量の差が非常に少ないため目標を達成したとみています。南支店のガソリン消費量のみが目標を達成出来なかったとみています。目標を達成できなかった原因は、ガソリン車を福岡営業所から南営業所へ2台移籍したことが影響したと考えられます。移籍した2台は業務上、走行距離が長いため影響が大きくなっています。

南支店の軽油消費量が大きく減少しています。これは南支店の車両の減少による走行距離の減少が原因とみています。

(4) ガソリン・軽油の燃費向上(判定【全社:×/×,本社・福岡支店:×/×,南支店:×/○】) 南支店の軽油以外は、全社、本社・福岡支店、南支店のガソリン・軽油共に目標を達成でき

南文店の軽油以外は、生社、本社・福岡文店、南文店のカフリン・軽油共に自信を達成できませんでした。また、旧明和運輸の車両を含めた結果も達成できませんでした。

ガソリン・軽油共に前年度より燃費は向上しましたが、目標達成には至りませんでした。

南支店のトラック運転者は以前から省エネ運転の意識が高く、その結果が年々の値に表れています。本社・福岡支店は1回の運行距離が長くなると燃費が悪くなる傾向があります。現在行っている運転指導に足りないものがあるように思えます。

目標を達成できなかった原因調査のため、小型車、中型車、大型車や冷凍車など車格による 数値の把握ができるよう検討します。

(5) 廃棄物総排出量の削減(判定【全社:×,本社・福岡支店:○,南支店:×】)

本社・福岡支店で目標達成できました。全社及び南支店は目標達成できませんでした。南支店の結果が全社の結果となっています。

本社・福岡支店において、分別を細かく、分解できる物は分解するという事を徹底した効果が 結果として表れました。また、お客様に廃棄物減量のお願いも続けています。

南支店は梱包材の増加による廃棄物の増加となっています。受注増加で梱包材も増加しているので、発送元への梱包材の簡易化のお願いなどを相談し、廃棄物排出量を減少させるよう努力します。

(6) 総排水量の削減(判定【全社:×,本社・福岡支店:×】)

総排水量の削減において、南支店の水道はすべて井戸水で、使用メーターも未設置のため、 その使用水量を数値で計ることができません。目標値/実績値は、本社・福岡支店の値として います。

総排水量の削減は目標を達成できませんでした。東倉庫において、2月に水道管凍結防止のために蛇口を開けていたことを忘れ大量に水道水が漏れていたことがありました。この月を平常使用量とすると目標は達成したと考えられます。今後、このようなことが無いよう管理指導を行います。

洗車で使う水の量を数値化できるよう洗車時間の管理を本社・福岡支店及び南支店で行っていますが、2014年度から南支店の洗車場で洗車が出来ない状態が続いています。このため南支店の洗車時間の計測も出来ていません。雨水利用のタンクを設置し洗車に使用する設備工事は早めに予算を確保するよう努力します。また、南支店の井戸水使用メーターの設置を含めて検討します。

(7) グリーン購入使用品目増(判定【全社:○】)

レーザープリンタトナーとジェルジェットインク、トラック用タイヤ、制服(運転者・事務)、 書類を綴じるファイル、糊・テープ、マジック・サインペンを前年までに対象としてまいり ました。今年度は、その他筆記具を追加品目としました。会社購入に限らず個人購入のファ イルもなるべくエコマーク付きにするよう、従業員へお願いしました。

(8) ダンボール使用量の削減(判定【福岡支店:×】)

今年度は目標達成できました。新品ダンボールを使用する事務所移転が前年度に比べて少なかったと考えられます。

前年度と比較すると、中古ダンボールの使用量は減少していますが、エコダンボールの使用量は増加しています。中古ダンボールやプラスチックダンボールの利用を営業担当者からお客様へアピールするよう引き続き行ってまいります。

今後は、ダンボール以外の資材類(テープ類や梱包材)の削減目標ができるようデータの収 集と準備を行います。

(9) 低公害車100%導入の維持(判定【本社:○】)

今年度、3月に1台、12月に1台のトラックの新車購入がありました。低公害車の確認をしました。12月に中古乗用車1台を購入しましたが、中古車であるため低公害車100% 導入の対象に含めていません。

(10) エコ・地域活動項目の増(判定【南支店:○】)

事務所横のグリーンカーテンは今年度で5年目となりました。結果は、窓全体を覆うほどに 十分なカーテンまでには育ちませんでしたが、夏場の温度上昇抑止効果が感じられるほどに 育ちました。次年度も引き続き育てます。さらなる節電効果を期待します。

また、営業所周辺の道路脇などを週一回ペースで清掃するようにしました。確実に週一回実施は出来ていませんが、これも引き続き実施していきます。

■ 今後の取組内容

今年度は、本社・福岡支店グループと南支店グループ拠点間の違いを把握するため、ガソリン・軽油の燃費向上目標管理を、本社・福岡支店グループ、南支店グループ及び全社毎に変更しました。 運行内容や運行形態の違い、ドライバーの意識の差などが結果に表れました。

2017年7月に、グループ企業を構成しております「株式会社 明和運輸」を合併しました。旧明和運輸の車両は下記の通りです。合併後は、全車両南支店の所属となりました。

大型冷凍車 6台 軽油 2017年度消費量:107,285.02L 燃費:2.42km/L 今年度は環境活動目標3カ年の2年目です。旧明和運輸の車両は大型冷凍車のため1台当たりの燃料消費量が多く、燃費も他車種と大きく違うため、このまま燃料消費量と燃費向上の実績値へ算入すると、大幅な目標値の見直しとなってしまいます。ここでの目標値の見直しは環境活動目標3カ年の継続性が失われるので、旧明和運輸の車両の燃料消費量と燃費向上の実績値は、次年度まで別枠で管理し、報告いたします。

燃料消費量は、運送売上高の内、自社車両で運送した走行距離に比例します。受注した中で傭車売上は燃料消費量に影響しません。また、自社車両の運行の増減により洗車回数も影響を受けます。これからは、環境活動目標値に対し受注や売上高、作業量などによって増減する実績値の評価方法を研究しなければなりません。

燃費向上において、車種(大型・中型・小型・乗用・軽トラック・冷凍)ごとに目標設定するために、車種の規模(台数)のグループ化など引き続き情報の収集準備を行います。

南支店グループの廃棄物排出量削減について、受注増加による梱包材の増加で、廃棄物の増加となっています。発送元への梱包材の簡易化のお願いなどを相談し、且つ廃棄物排出量を削減する 方法を模索します。

内部監査について、監査内容をEA-21 専門として行うのではなく、現業業務の内部監査を主軸とし、その中にEA-21 の監査項目を簡単なものから徐々に追加していく方向で、監査内容を整えていくよう検討することとしました。主となる現業業務は運行管理を想定しています。内部監査を実施することが有意義であることを根付かせることが、大事であると考えます。

以前からマンネリ化が指摘されています環境活動の啓蒙指導(従業員の意識向上・理解)は、新たな手法や教材の開発を引き続き行います。何かにプラス環境活動教育内容で進めてまいります。

EA-21の十分な運用ができるよう、今後も環境方針に基づき、当社の事業活動のあらゆる分野で、環境に配慮した行動に努めていく所存です。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の 有無

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

社内でのチェックリストを基に許可証・契約書・管理票・マニュアル・記録データ・その他帳票 類等を点検、順守状況を確認したところ環境関連法規、事業に係わる法規いずれも遵守している ことを確認しました。

≪当社の関連する主な法規制≫

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法	・廃棄物の削減	遵守確認済
	・廃棄物の適正処置の確保	
	• 産業廃棄物保管基準遵守	
	・産業廃棄物処理委託基準の遵守	
	・産業廃棄物管理票の管理義務	
	• 産業廃棄物収集運搬業者	
水質汚濁防止法	・排水への油分混入の防止	遵守確認済
自動車リサイクル法	・リサイクル費用の預託	遵守確認済
	・使用済み自動車を引取業者へ引き渡	
	す	
労働安全衛生法	• 安全衛生管理体制	遵守確認済
	・健康診断	
消防法	・消防設備の維持管理	遵守確認済
貨物自動車運送事業法	・事業用トラック使用の為の遵守	遵守確認済
道路運送車両法	・所有車両の法定点検、日常管理	遵守確認済
道路交通法	• 法定速度遵守	
倉庫業法	・営業用倉庫を営む為の遵守	遵守確認済

■ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社は関連法規制及び同意事項の遵守状況確認を毎年1回実施しており、その結果、違反・訴訟及び地域住民等からのクレームはありませんでした。又、今後も環境関連法規と社会的要求事項を進取し適時改善を行い更なる環境保全活動の制度の向上を図ってまいります。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

重点事項である「燃費向上」は、今年度より本社・福岡支店グループと南支店グループを分けて 目標管理しました。設定された目標値は南支店グループの方が高い値になりました。それでも南 支店グループの軽油燃費は目標を達成しました。南支店グループドライバーの意識の高さに感 心しました。全体的に前年度より燃費は向上しましたが、本社・福岡支店グループは目標を達成 できませんでした。デジタコによる運転指導など従来の指導方法では足りない部分があると感 じます。足りない部分を面倒でも探して是正しなくてなりません。「燃費向上」は利益となって 還元されます。目標の車種毎の細分化は当社にマッチする燃費向上の分類を分析検討し、実施し たいと思います。

2017年7月にグループ企業の「株式会社 明和運輸」を合併しました。車両やドライバーの所属は南支店グループとしましたが、環境活動目標3カ年の半ばであるため、現在の目標値の改訂は行わず、次の3カ年目標設定時に反映すること。また、実績値は別途管理し、環境活動レポートに反映するよう指示しました。

「電気使用量の削減」、「灯油使用量の削減」は、夏期・冬期の気温に大きく左右されます。事務所の区切りや遮光など、気温をコントロールする手段を考えなければ削減目標値に近づけるのが精一杯となるでしょう。

「廃棄物排出量の削減」について、本社・福岡支店グループの取り組み(分解・分別の徹底とお客様へのお願い)が功を奏し削減されました。取り組み実施の継続をお願いします。南支店グループの廃棄物増加は、受注量増加による梱包材の増加が原因の一つであると聞きました。これは当社だけで解決するものではなく、発送元へ梱包材の簡易化のお願いなどを相談し、お互いに協力しなければなりません。目標達成か否かではなく、目標達成のために行った事項が重要であると考えます。

南支店の「洗車場に雨水利用のためのタンクを設置する」は、当社予算が確保でき次第、実行する予定です。予算確保を努力します。

今年度も問題点の是正と予防の起票が十分ではありません。問題点や予防する点を見つけ、対処を考え実施することがまだまだです。特に小さな予防処置の実施が、大きな問題を未然に防ぐことを理解してもらいたい。

内部監査について、監査内容を、運行管理業務(運転日報、運行記録や労務管理など)を主体とし、その中にEA-21の監査項目を法令順守や燃料消費量など比較的理解しやすい項目から徐々に追加していくことで、監査を行う担当者が徐々に育つのではないかと思います。内部監査を実施することが有意義であることを根付かせることが必要です。

教育の内容や指導事項のマンネリ化の解消は、まだ解決策が出ていません。新たな手法や教材の 開発を引き続き行います。何かにプラス環境活動教育内容で進めてまいります。

来年度も「何か他にできるものはないか?」「問題を解決する手段は何か?」次の階段へステップアップするために、当社自ら販売・提供するサービスを考え、地域活動への参加・協力を推し進めてまいります。

以上